

令和8年度 当初予算 令和7年度 2月補正予算



やまちゃん通信

北九州市議会議員 八幡西区

やまさき ひでき



市政レポート
2026年 No.1

編集・発行 山崎英樹
2026年4月
通算第1号

ご挨拶

昨年1月の北九州市議会議員選挙で初当選してから、早くも1年が経ちました。この間、市民の皆様の「暮らしの現場」や「働く現場」に触れながら、日々寄せられる声を市政へ届けてまいりました。

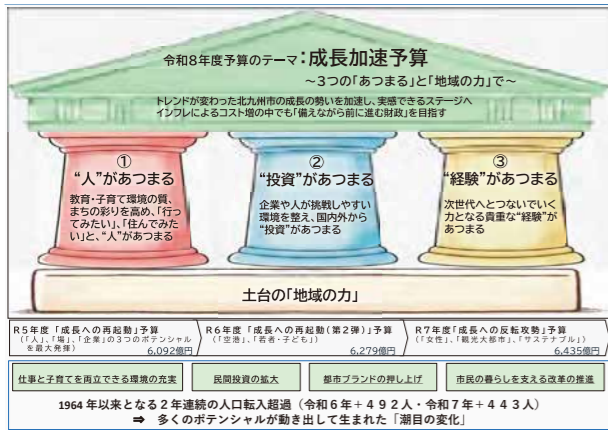
副都心・黒崎地区のまちづくりでは、旧クロサキメイトビル跡の再生が地域活性化の大きな鍵であり、安心して暮らし続けられる環境づくりにも直結する課題です。議会でも繰り返し取り上げてきたテーマであり、今後とも着実に取り組んでまいります。

公共交通については、輸送人員の減少や燃料費高騰などの影響に加え、運転者不足が深刻化し、減便や休廃止だけでなく、事業継続が困難となり廃業に至る事業者も出ています。公共交通網の衰退は、市民生活や地域経済に大きな影響を及ぼします。市民の皆様の移動手段を守るため、課題解決に向けて引き続き取り組んでまいります。

これからも「暮らしの現場」「働く現場」「現場の思いを政策に」「現場第一主義」を理念に、市民の皆様の声を市政へ届けてまいります。今回、市政報告を作成いたしましたので、ご一読いただければ幸いです。今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

北九州市議会議員 やまさき ひでき

令和8年度一般会計予算 予算規模6,477億円(過去最大)



令和8年度 一般会計予算の構造

1 予算規模
令和8年度予算は、**6,477億円**(前年度比+42億円、+0.7%) 過去最大

【増要因】
●福祉医療関係経費の増加 +106億円(増減率+1.2%)
●買上げ基準を踏まえた人事委員会の給与改定等 +43億円
●公債費の伸び +14億円(主に全体的な増) 学校、保育、こみ処理関連等+14億円
●物価高の影響

【減要因】
●「北九州市未来のまちづくり投資基金」積立金(※前年度のような基金積立がないため) ▲200億円
【参考】
「北九州市未来のまちづくり投資基金」積立金の減の影響を除くと、前年度比+242億円、+3.8%

2 歳入・歳出の概要
【歳入】(主なもの)
市税等の一般財源は、前年度に比べ88億円の増加
3,189億円(前年度比+88億円、+2.8%)
●市税 1,925億円(過去最高額を見込む) (前年度比+40億円、+2.1%)
●県税交付金 361億円(前年度比+16億円、+4.6%) (市県共同債の償還に充当される) ▲99億円
●地方交付税 916億円(前年度比+91億円、+11.2%) (臨時財政対策債償還基金(1)を除く) ▲25億円(前年度比)
●公営競技事業会計の収益金の活用 75億円 (前年度比+25億円、+50%)
●財源調整基金の活用 152億円(前年度151億円)

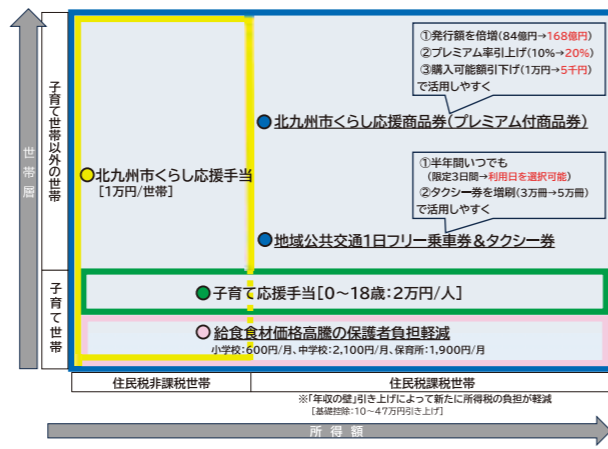
【歳出】(主なもの)
●人件費 1,181億円(前年度比+82億円、+7.4%) ※うち退職手当による増加分を除くと前年度比+43億円
●扶助費 1,841億円(前年度比+92億円、+5.3%)
●公債費 694億円(前年度比+2億円、+0.3%)
●投資経費 644億円(前年度比+2億円、+0.3%) 2月補正分を含む。減正水準(650億円/年)の範囲内。
●次世代投資枠 105億円 ※令和6-令和8年度(3か年)で357億円(目標額である330億円を超過)

3 市債発行額・残高
●市債発行額 375億円(前年度比▲12億円、▲3.1%)
●市債残高 8,030億円(前年度比▲15億円、▲0.2%)

4 次世代投資枠
●105億円 ※令和6-令和8年度(3か年)で357億円(目標額である330億円を超過)

(※1)臨時財政対策債償還基金:臨時財政対策債の将来の償還のために交付されたもの。全額、公債償還基金へ組み立てを行う。

北九州市における 物価高対策(生活者支援)のカバー範囲 【概念図】



令和7年度 2月補正予算(概要)

長引く物価高の中、「生活者支援」と「事業者支援」の両輪で、市民のくらしと経済基盤を支えるとともに、学校施設や道路・街路等の整備など必要な支援・事業を実施するもの。

一般会計予算規模:174.2億円 【特別会計:13.6億円 企業会計:159.2億円 全会計:347億円】

(1)物価高から市民生活や企業活動を広く支える 16.4億円
参考:重点支援地方交付金の活用状況(生活者支援:58.5億円 事業者支援:15.0億円)

生活者支援
●令和8年度当初予算計上 21億円(重点支援地方交付金活用)
●北九州市くらし応援商品券(プレミアム付商品券)発行
●給食費の保護者負担軽減
●地域公共交通1日フリー乗車券及びタクシー券の購入支援 5億4,500万円

事業者支援
●中小企業への支援 2億6,000万円
●福祉サービス事業者等への電気代・食材費等支援 8億3,166万円

(2)国の補正予算を活用した公共インフラの整備 79.2億円
●学校施設の整備 48億7,466万円
体育館・アンプの耐震やトイレの洋式化、校舎の老朽化対応等を実施
●道路・街路等の整備 3億2,664万円
戸畑技術線道路改良工事等を実施
●港湾施設の整備 5億7,100万円
物産館北ののり場の老朽化対応等を実施
●上下水道の整備 21億5,107万円
上下水道の地域対策や改善更新等を実施 など

(3)保育士等の人員費引き上げや福祉サービス等の利用者増への対応 42.7億円

<その他> ●一般会計:令和6年度特別剰余金や運用後の基金積立金、国の最高額引上げに伴う生活保護費の追加交付金253.2億円
●特別会計:令和6年度補助金等の実施決定に伴う国・県費の返還(国庫返還特別交付金)17.8億円
●企業会計:モーターボート競走事業の母体兼好調による私設費の増加(公営競技事業会計)137.7億円

やまさきひでき 市政相談所

〒806-0055 北九州市八幡西区幸神1丁目2-8
TEL:093-981-0575 FAX:093-981-0576

北九州市議会 会派控室 市民とともに北九州

〒803-8501 北九州市小倉北区内1-1
TEL:093-582-2658 FAX:093-582-4867



やまさき ひでき プロフィール



会派

所属会派:市民とともに北九州

略歴

- 北九州市立鳴水小学校(1986年3月 卒業)
- 北九州市立黒崎中学校(1989年3月 卒業)
- 福岡県立八幡工業高等学校 金属工業科(1992年3月 卒業)
- 国立九州工業大学 工学部 物質工学科 卒業(1996年3月 卒業)
- 西鉄バス北九州株式会社 入社
- 2025年2月初当選現1期

◎このニュースレターの一部は、市議会各会派に交付される政務活動費を用いて作成しています。
◎重複して送付されたり、宛名変更などがある場合は、お手数ですがやまさきひでき事務所までご連絡ください。

八幡西区のまちづくりについて

■質問

黒崎地区の都市デザインの策定状況と今後の展開について伺う。

■答弁

黒崎のまちづくりにつきましては、北九州市基本構想・基本計画によってお示ししているとおおり、都市型住宅の集積促進により居住人口の増加を図るとともに、多世代が交わり支えあうまちをつくっていく、また、個性的、特徴的な店舗の出店や賑わいづくりなどによる、歩いて楽しいまちなかを創出していくとしております。

こうしたまちづくりの将来像を着実に形にしていくためには、公共空間の整備にとどまらず、官民連携で都市の魅力と価値を高める必要があることから、民間事業者による投資を呼び込めるまちづくりの方向性を示す都市デザインの検討を進めております。

検討にあたりましては、道路や公園などの公共施設の新たな

使い方により、「居心地がよく歩きたくなる空間」や「多世代が集い交流できる場」の創出について検討を深めるとともに、黒崎の魅力と活力を高めるには、どのような都市機能が必要か、将来的な投資の可能性について、民間事業者との対話を重ねて整理を進めているところでありまして、来年度、整理され次第、方向性を示したいと考えております。

令和8年度からは、この都市デザインをもとに、民間事業者の皆様をはじめ、官民一体となりまして、各プロジェクトをいかに動かしていくのか議論を深めまして、具体のプロジェクトとして実装していくことを目指してまいりたいと考えております。

■質問

クロサキスイッチで得られた成果や課題を踏まえ、来年度は、黒崎のにぎわいを継続して生み出すために、どのような展開を考えているのか。都市デザインとの連動も含めて伺う。

■答弁

クロサキスイッチを実施した成果といたしましては、45日間で約40万人、最終日のパレードでは1日で約10万人を集客、経済波及効果約32億円、来場者のアンケート満足度91%、ふれあい通りの歩行者通行量が平均約2.6倍に増加、Instagramの総閲覧数271万ビュー、うち市外250万ビューなど、全国からの注目も集め、黒崎のポテンシャルを目に見える形で示すことができたと考えております。

一方で、こうした成果を一過性のものとするのではなく、将来にわたるハード・ソフト両面での民間投資を呼び込む原動力としていくことが重要でございます。

このため来年度のクロサキスイッチでは、昨年以上にまち全体で集客力の高いコンテンツを展開し、黒崎への更なる注目・認知度を高めてまいります。

また、都市デザインとの連動につきましては、単に、賑わいだけで終わることなく、クロサキスイッチで得られた道路・公園等の公共空間活用の成果やノウハウを都市デザインに反映してまいります。

そのうえで、民間開発と公共空間整備を同じ方向性で進め、相互に連動させることで、点ではなく、面としてエリアの投資

価値を高め、民間投資の好循環を生み出すことにより、まちの変化が実感できる黒崎へとアップデートしてまいります。

いずれにいたしましても、官民連動でまちのポテンシャルを最大限に引き出し、賑わいを投資へつなげ、持続的な発展に結び付けるといった視点を大切に、スピード感をもって取り組んでまいりたいと考えております。



観光振興について

■質問

オープントップバスは、景観そのものを体験価値として提供できる点で、観光振興プランが掲げる「訪れる人の満足度向上」「周遊性の強化」とも親和性が高いと考えます。

本市として、この新たな観光資源をどのように生かし展開していくのか伺う。

■市長答弁

このオープントップバスでは、関門海峡や若戸大橋、モノレール、工場夜景など、北九州市ならではの迫力に満ちた多彩な景観を楽しめる走行ルートが設定されているほか、信号機に手が届きそうなほどの高い視点から、躍動感ある都市景観を体験できることとなります。

このため、北九州市といたしましては、オープントップバスを市内外への誘客プロモーションにおける新たな目玉コンテンツとして積極的にPRをするほか、市内各所の観光資源や「すしの都 北九州市」など他の施策と組み合わせた周遊プログラムを検討するなどによりまして、北九州市ならではの観光の楽しみ方を創出していきたくと考えております。

今回のオープントップバスの導入は、観光大都市への進化に向けた大きな一歩でもございます。

北九州市としましても、オープントップバスがまちに彩りを添え、その走る姿が新たなまちの風景として定着するよう、西鉄グループとも連携をいたしまして、取り組みを進めるとともに、北九州市の観光の魅力をさらに高め、ワンステージ上の観光都市へと、発展させてまいりたいと考えております。

■質問

オープントップバスの市民への周知や利用促進をどのように進めていくのか。また、観光コンテンツを市民が自ら体験し、発信することで観光の担い手となっていくために、どのような仕掛けづくりを検討しているのか伺う。

■答弁

オープントップバスを定着させるためには、観光客だけでなく、市民の皆様にもその魅力を実感していただくことも重要でございます。

普段とは異なる角度からまちの景色を眺めることは、我が街の魅力を見直し、市民自らが発信する契機となります。

このため、北九州市としては、小倉駅のサイネージや、市政だよりなど、既存の広報媒体を活用した周知を行うとともに、各部署と連携したイベント運行や地域行事との連動など、様々

な機会を通じて、オープントップバスの市民利用の促進を図ってまいります。

あわせて、市民が発信の担い手となる仕掛けについても検討を進めております。昨年実施いたしました実証運行では、乗客による写真撮影やSNSへの投稿が多く見られました。こうした動きを後押しするため、運行開始後には、SNS投稿キャンペーンの実施や、ハッシュタグの活用など、参加型のプロモーションを展開し、自発的な情報拡散につなげてまいりたいと考えております。

これらの取り組みによりまして、今後北九州市といたしましては、オープントップバスの運行を通じて、体験、発信、誘客を循環させ、持続的な観光振興へとつなげてまいりたいと考えております。

■第二質問

こうした景観の物語性をどのようにルートづくりに生かし、地域の魅力をつなぐ仕掛けをどのように整えていくのか。また、地域の事業者や観光団体とともに、この取り組みを、育てていく考えについて伺う。

■答弁

今回のコースですけれども、門司港レトロの街並みから、国の重要文化財の門司港

駅、それから小倉、そして工場群、若松の風車まで、自然の景観、それから、近代・現代・近未来といった、北九州市の歩みを感じていただけるようなコース設定となっております。それらがひとつのコースとして繋がって、新たな魅力が生み出されるのではないかと期待しているところです。

また今後、西鉄グループをはじめ地域の事業者の皆様と連携いたしまして、また、実際の利用者の声を聞きながら、例えば、新しいルートづくりであったり提案を行っていくなど、今回のオープントップバスが、今後、北九州市の観光に欠かせないコンテンツとなるように、そういったことを目指してまいりたいと思います。



公共交通の維持・向上について

■質問

今回の「北九州モデル」ともいえる新規事業について、今後どのように取り組みを進めていくのか伺う。

■答弁

令和8年度は未来につながる公共交通ネットワークづくりとして、1つ目に、持続可能な公共交通ネットワークの再構築を目指し、令和9年3月を目途に、地域公共交通計画の改訂を進めてまいります。改訂にあたっては、地域の移動実態や将来需要を踏まえつつ、幹線・支線の役割分担、交通結節点での乗継ぎ

利便性の確保、運行の効率化などの観点から、公共交通全体の最適化を図ってまいります。

2点目に地域の実情に応じた、A I オンデマンド交通など新たな移動サービスについて、実証を行い、効果や課題を検証した上で、実装・横展開に向けて取組を進めてまいります。

バス路線の廃止等によりお困りの地域を支える生活交通として定着している、いわゆる、おでかけ交通の運行を継続しまして、日常の移動手段の確保に取り組んでまいります。

また、持続可能な公共交通の維持には、運行を支える人材の確保が不可欠でございます。

今年度、新たに始めた官民連携による「北九州モデル」では、バスやタクシー事業者が業界を超えて実施した運転手募集で一定の成果が得られたことから、来年度は、募集エリアを市外へ拡大するなど、人材確保の取組を一層強化してまいります。

■質問

来年度における「おでかけ交通支援事業」の取り組みについて、今年度との違いを中心に伺う。

■答弁

来年度における「おでかけ交通支援事業」の取組の今年度との違いにつきましては、おでかけ交通の利便性向上と利用促進に向け、運行そのものの検証を新たに進める点でございます。

具体的には、一部の地域において、利用者の需要に応じて柔軟に対応できるA I オンデマンド交通の実証運行、2点目に定時定路線型から自由経路型への移行などにより、既存路線の運行形態のあり方について、利用者の利便性や運行効率等の観点から検証を行ってまいります。

今後とも、これらの取組を着実に実行しまして、持続可能な公共交通ネットワークを構築することで、市民の皆様が、安心して移動できるまちの実現を目指してまいります。